

じょうこうじ

掟光寺だより

令和5年
1月号

行事案内

●1月1日(祝)

「寺年賀参り」 午前中

●1月4日〜6日

「家祈祷参り」

6時30分から

●1月15日(日)

「終い御講(寄合会計)」

13時30分から



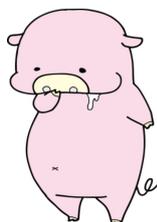
仏教たとえ話

【欲が満たされないわけ】

ある人が欲の深い人に「そんなに儲けてどうするのかね。もうあなたの器には、十分に儲けて得たものが満ちているから、これ以上得てもあふれ出るだけだろう。それだったら、そのあふれた物をみ

んなに分けてやったらどうかね」と注意をしたところ、欲深い人が答えていうには、

「いや、その都度、器も大きいものに取り替えているから、いっぱいにはならないよ」と答えた。



【補足】

シンプルに欲が満たされないわけを述べている文である。

器を大きい器に取り替えている限り、欲望はいくら満たされても尽きることはない。また、「足りる」ということを知らなければ、失うものも大きいとも言える。

器をためても結局は漏れるばかりこれを仏教語で「有漏」と言う。

ウロウロするという言葉の語源である。有漏有漏。煩惱に惑われてあちらこちら行く様を表す。新年はウロウロせずになりたいものである。

正月行事のあれこれ

【しめなわ】

しめなわ(注連縄)は、元々、神が住まいする聖域を示すための結界をいいます。神社の鳥居に長いしめ縄が張っていることが多いのはこのためで、悪い霊や一切の穢れを払って寄せ付けない神域であることを表した目印です。

しめ縄の起源は、天の岩戸に隠れた天照大神を、力自慢の手力雄命が岩戸をこじ開けて大神を連れ出し、大神のまわりを天児屋命と太玉命が縄を引きめぐらし、「これより内に帰り給うな」といわれたという神話が元になっていいます。その縄を「後久米縄」といい、縄の尻を切り捨てないで、そのままなうという意味です。

民家のしめ飾りは古来、正月行事の中で最も重んじられる飾り物で、神前、床、玄関、門などに飾ります。また、農家では古くから、建物の入口以外にも農機具や井戸、かまどあんどに飾る習慣がありました。そこには厄災から身を守って欲しいという願いが込められていました。

神の神域を表すものが庶民の生活に取り込まれ、厄災を払うお守りのような存在に変わっていったわけです。

【おせち】

おせちは「御節」と書き、元々は節供(節句)の日に供える料理を、おせち料理と言いました。節供とは節日の供物という意味です。

また節日とは季節の変わり目にあたり祝い事をする日をいい、主な日は1月7日の人日、3月3日の上巳、5月5日の端午、7月7日の七夕、9月9日の重陽で、これを「五節供」といいます。

そのなかでも最も重要なのが正月であることから、おせちは正月料理を指すようになったわけです。

ちなみにおせち料理が段になって重箱になっているのは、めでたさを「重ねる」という意味で縁起をかついだことによるそうです。

